

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371300860
法人名	有限会社 サンクチュアリ
事業所名	グループホーム 樹樹
訪問調査日	平成19年12月20日
評価確定日	平成20年1月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300860		
法人名	有限会社 サンクチュアリ		
事業所名	グループホーム 樹樹		
所在地	名古屋市守山区金屋二丁目250-2 (電話) 052-758-0070		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年1月24日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年12月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	20 人	常勤10人, 非常勤10人, 常勤換算5.23人

(2) 建物概要

建物構造	木	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成19年11月20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	6名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	81歳	最低	63歳	最高	92歳
協力医療機関名	上飯田第1病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者が笑顔で生活できる家づくりしたいというオーナーの篤い思いは、日々のケアにも活かされており、入居者が楽しく安心して過ごせるよう職員はサポートしている。オーナーも毎日ケアにあたっており、理念を共に意識し、「暖かい気持ちで、日々尊ぶ」が実践されている。職員は家族として入居者に接しており、信頼関係が築かれている。入居者と職員と一緒に目標を考え、ホームでの生活を楽しく過ごしてもらえるようフロアに掲示している。ホームでは小型犬を飼っており、入居者や職員の癒しとなっている。多彩なボランティアの訪問が毎週あり、太鼓や民謡を歌ったり、踊るなど娯楽とりハビリを兼ねたものになっている。家族との関係を大切にしており訪問も多い。地域との関係についても努力しており、今後の発展が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の見直しや書類の重複を整理し、職員の担当制、各フロアに主任を配する事により責任を明確にし、改善会議や運営推進会議、法令遵守等の徹底と確認、職員の意見の汲み取りなど改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価をサービスの質の確保に活かそうと積極的に取り組んでいる。自己評価は職員が各自で実施すると共に、フロア毎に話し合う機会も設けた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>メンバーは、町内会長、協力医師、近隣施設の職員、ボランティア、入居者家族、ホーム代表者、管理者で構成されている。理念をはじめ、ホームの役割、活動などについてや、評価についても説明している。メンバーからは、アドバイスや助言などをいただいております。運営に反映している。認知症についての勉強会も予定しており、ホームにとって温かく見守ってくれる存在である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会を年3回実施しており、ホームの方針や取り組みについて話し合い、家族からいただいた意見については検討し、結果についても報告している。3回のうち、春と秋は外食に出かけ、入居者も楽しみにしている。入居者と職員の関係を実際に見てもらい、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気づくりにも配慮している。家族と職員が共に協力しながら入居者を支えていけるよう取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、町内の行事にはできるだけ参加するように心がけている。近隣の幼稚園から運動会へ招待してもらっている。定期的にボランティアの訪問があり、近所の方から気軽に声をかけてもらう関係もできてきた。ホームとしても地域に馴染めるよう週1回ホームの外周を入居者と一緒に掃除している。地域の人に理解や協力の啓発を考え、回覧板にホーム便りを入れ回覧したが宣伝と誤解を受けたこともあり、認知症についての知識から啓発していこうと現在検討している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「暖かく尊ぶ」を理念に掲げ、暖かい気持ちで日々尊ぶように努めている。何が大切かを職員全員で考えつくりあげた理念であり、人生の先輩として尊び、入居者がホッとするような空間づくりを大切にしている。運営方針として、入居者本位の支援についてや、家族、地域との関わりについて掲げている。職員には、法改正の時に地域密着型サービスについて説明をした。		地域密着型サービスの役割を理解しており、申し送りやミーティングなどで理念の意識づけがされている。今後、理念の見直しについて検討していきたいと考えていることから、実現に向けた取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日声に出すことで、理念を意識してケアにあたるよう、申し送りで理念を唱和している。ミーティングでは、ケアの方針について、理念に立ち戻り考えるよう管理者は伝えている。管理者はおしつけでなく、職員一人ひとりが考え共に協力しホームをつくりあげていきたいと、"自分が入りたいグループホーム"について職員で意見を出し合い、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内の行事にはできるだけ参加するように心がけている。近隣の幼稚園の運動会には、依頼して見学に出かけたこともある。定期的にボランティアの訪問があり、入居者は楽しんでいる。ホームとしても地域に馴染めるよう週1回ホームの外周を入居者と一緒に掃除している。地域の人に理解や協力の啓発を考え、回覧板にホーム便りを入れ回覧したが宣伝と誤解を受けたこともあり、認知症についての知識から啓発していこうと現在検討している。		町内会長より、地区の防災訓練や行事への参加に声をかけてくれるなど温かい関係ができている。今後はさらに、地域の活動にも共に参加し協力していけるよう取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保に活かそうと積極的に取り組んでいる。自己評価は職員が各自で実施すると共に、フロア毎に話し合う機会も設けた。前回の結果については、職員全員に配布し共有を図っている。緊急時や感染症に対するマニュアルの整備に努め、職員の育成については、外部研修への参加や体験学習を取り入れるなど、職員の力を伸ばすことができるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは、町内会長、協力医師、近隣施設の職員、ボランティア、入居者家族、ホーム代表者、管理者で構成されている。理念をはじめ、ホームの役割、活動などについてや、評価についても説明している。メンバーからは、アドバイスや助言などをいただいております、運営に反映している。認知症についての勉強会も予定しており、ホームにとって温かく見守ってくれる存在である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市や区の窓口へは手続きなどで訪問することはあるが、積極的に意見や情報を交換するには至っていない。</p>		<p>訪問した際には担当者と話ず機会を設け、ホームの考え方や実情を伝えることで、現場の状況を知ってもらい理解や支援へつなげることができるよう、ホームから積極的に関係づくりに取り組むことを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入居者にとって家族は大切な存在であり、職員も家族との関係を大切にしていきたいと、積極的に情報を提供している。家族の来訪時には入居者の状況を説明しており、毎月ホーム新聞「樹樹だより」を家族に送付している。また、新聞と一緒に担当職員によるコメントを記した手紙もつけている。担当職員が異動する場合は、その入居者の家族にも知らせている。ホームの行事や家族会への参加も多く、家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年3回実施しており、ホームの方針や取り組みについて話し合い、家族からいただいた意見については検討し、結果についても報告している。3回のうち、春と秋は外出に出かけ、入居者も楽しみにしている。入居者と職員の関係を実際に見てもらい、家族が意見や要望を出しやすい雰囲気づくりにも配慮している。家族と職員が共に協力しながら入居者を支えていけるよう取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に職員はフロア毎に固定されているが、事情により異動することもある。職員が離職する場合は、入居者にダメージを与えないよう配慮しながら説明している。新人職員が入ると、まずホームのことを理解してもらうために、決まり事やその理由について記したマニュアルを読んでもらい、馴染みの職員について指導を受けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じで育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>フロア会議の中で勉強会を実施しており、会議は原則、全員参加としている。講義形式だけではなく、自分で考えたり、体験して感じることも大切であり、職員の力を伸ばせる体制づくりに取り組んでいる。現在、"自分が入りたいグループホーム"について職員が意見を出し合っている。また、職員からの提案で車椅子で1日過ごすという疑似体験を行った。体験することで入居者の視点に立って考えることができ、今後も継続していく予定である。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名古屋グループホーム協議会に参加しており、研修や意見交換をしている。参加は主にオーナーや管理者、主任としている。参加後は、内容を報告したり研修報告書を掲示するなど情報の共有を図っている。</p>		<p>職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう、今後の取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に体験入居をすることが可能であるが、実際には早く入居を望む家族が多く、家族の状況も考慮している。入居後に本人に少しでも早く馴染んでもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。申し込み後は、本人の自宅を訪問し、面談を行い情報を収集し、本人の状況を把握するよう努めている。</p>		<p>家族などの状況で利用が急がれる場合でも、入居者が安心してサービスを利用できるよう、家族などと話し合いながら調整されることを期待したい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員は家族であるとの考えから、入居者という表現はせず「ファミリーさん」と表現している。年長者として敬い、本人の性格や生活歴を理解し、その人に合わせた対応で自立支援に努めている。入居者から教えてもらうことや助けてもらうことも多く、共に支え助け合う関係づくりに努めている。共に生活する「ファミリー」であることを意識してもらえよう毎月、茶話会を開き、慣わしについてや季節に関する議題をたて話し合い、回想法にもつながっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示をはっきりされる人もいれば、難しい人もおり、職員は日常の生活の中で、声かけを意識し、入居者の表情や様子を見ながら思いや意向を把握するようにしている。また、1対1で話す時間をできる限りつくるように努め、コミュニケーションを大切にしている。気付いたことなどは記録し職員間で情報を共有できるよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制を取り入れており、入居者の担当職員がアセスメントし、フェイスシートを作成している。入居者の立場にたって暮らしを反映した介護計画が作成され、担当職員が原案を作成し、計画作成担当者と話し合いながら、完成させている。毎月、フロア会議が開かれ入居者の状態や対応について話し合っている。家族には来訪時に計画の説明をしたり、郵送するなどして、同意書に署名捺印してもらっている。同意書には意向を書く欄も設けられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当職員が計画に対する実施記録として、毎月、入居者の様子や経過報告を記録している。計画作成担当者からのコメントも記入されている。6カ月毎に介護計画の見直しを実施している。状態に変化があった場合は、その都度、介護計画を見直し家族に送付している。新しく作成した介護計画は個人記録に挟み職員が確認するようになっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>専門医への受診は職員が同行し、入院が困難な人については、ホームの協力医療機関や訪問看護センターと連絡を密にし情報の共有を図り、本人や家族の要望に対応できるよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医への受診については可能である。その場合、ホームの協力医療機関の受診を受けてもらったうえでお願いしている。かかりつけ医への受診は家族が同行し、服薬等の情報は家族より報告を受け記録している。ホームとして協力医の往診を月1回受けており、必要時には専門医の往診の考慮をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の看取りについては、過去に経験もあり、協力医療機関と専門医療機関、24時間対応の訪問看護センターと連携を保ち、管理者や職員とで幾度となく話し合い、介護方針や治療方針等の情報の共有に努めながら最後まで看取り、お送りする取り組みがされた。家族会のアンケートにも看取りの要望が多く有り、その都度話し合いを持って要望に応えるよう取り組んでいる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の記録等は鍵つきロッカーに保管する配慮がされ、記録などの記載はミーティングルームなど入居者には見えない場所で行っている。職員は常にさりげない声かけと介助を心がけているが、自己評価を職員が実施した中で、トイレ介助の時にドアを閉めることについて、実施できている人といない人で評価がわかれた。日々の話し合いの中で、プライバシーの遵守とその理解の徹底、確認をさらに取り組んでいきたいと考えている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎週月、木曜日にボランティアの訪問があり、1、2階合同で参加している。参加しない人には、職員が声をかけ参加を促すが、無理強いせず、本人の意思を尊重し、色紙細工など他の活動への取り組みを支援したり、職員とゆっくり話しをするなど配慮している。夜中に眠れず、職員とお喋りをしたり、入居者のペースに合わせた支援に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は月毎に、季節感のある献立を作成している。作業は入居者と職員と一緒に作るなど、入居者のできる範囲で、調理や盛り付け、テーブルのセッティングから、後片付けまで一緒に行っている。食事時にはテレビを消し、音楽を流し会話をしながらゆっくりと摂られている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂を楽しむにしている入居者が多く、入る順番の札をフロアに掲げ、トラブルの防止を図っている。入居者の負担を軽減するため、シャワーチェアを用意している。車椅子を使用している入居者は職員が介助し、一人で入浴を楽しみたい入居者には本人の希望に沿った支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	四季の行事や誕生会に合わせ、入居者と職員が共同で作品を作り、フロアには大きなクリスマスツリーが飾られて、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。洗濯物干しや取り込み、たたみなど、個々の能力に合わせ、できることを行ってもらい、「ありがとう」「助かります」と感謝の言葉を必ずかけている。入居者は自分の役割をもって過ごしており、日々の生活から新たな支援につながるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の美容院やスーパーを利用し地域とのつながりを大切にしている。週2回買い物に出かけ、家族、職員との食事会のほか、気候の良い日には町内を散歩している。外出途中に、地域の人から声をかけてもらうこともあり、職員が所要で外出する時には、入居者も一緒に出かけている。今後は、地域の方との協力関係を築き、入居者が一人でも安心して外出できる環境をつくっていきたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは間接的な身体拘束と考え、出入り口には施錠しないよう取り組んでいる。玄関のドアはプッシュ式の自動ドアになっており、ボタンの位置は上部に設置されているが、自分で押して出る入居者もいる。今後、位置を下げることを検討している。外出傾向が強い入居者には、気持ちが悪く落ち着くまで職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の通報訓練と防災訓練を計画しており、今年度は入居者と共に、避難訓練を消防署の指導を受けて実施した。非常用の備蓄品については、倉庫にヘルメットを用意しており、乾パンや水は各居室に準備されているが、期限や状態の確認までには至っていない。防災頭巾は各フロアの椅子にかけてある。		消防署の協力を得て実施した避難訓練に、地域住民の参加を募るとともに避難場所、避難経路の把握などに取り組み、非常用食料については、管理方法について確認することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは献立作成時に考慮しており、献立表にはカロリーも記載されている。入居者の状態に合わせ、量や形態を工夫し、摂取量も確認している。口から食事とれない人が、支援によって口から食事がとれるようになった事例もある。水分補給は、2回のおやつタイムと何時でも自由に水分の補給ができるよう配慮している。毎月体重測定を行い、10時には体操を行い健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	門から玄関、ホーム内まで車椅子対応になっており、居室は全室南向きである。フロアの一角には畳みのスペースもある。浴室近くにはランドリーコーナーや物入れが配置され、利便性が考慮されている。トイレの入り口がフロアに面していることから、目隠し用のロールカーテンが取り付けられ、入居者への配慮がされている。庭には菜園スペースがあり、多種の木々が植えられ春は桜、秋はもみじと季節を感じることができる。訪問時は時節柄、木にイルミネーションが飾られていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ台やベッドが備え付けになっており、それ以外は自宅で使い慣れた家具やテレビ、カセットラジオ、趣味の品など馴染みの物があり、壁には手づくりの作品や好みのポスターなどが飾られ、その人に合った居心地のよい環境づくりがされている。部屋の片付けは職員と一緒に取り組んでおり、入居者が分かりやすいよう顔写真付きの手づくり表札が入り口に掛けられている居室もある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。